

視野を広げ、生き方についての考えを深めることができる生徒の育成

ーゲストティーチャーの活用とデジタルポートフォリオによる振り返りの充実を通してー

前橋市立第一中学校 芹澤 直人

I 研究の背景

「中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別の教科 道徳編」では、道徳科の目標について、「よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる」と示されている。そのためには、他者と対話し、協働しながら、物事を広い視野から多面的・多角的に考えられるようにすることが求められている。

本校では昨年度より校内研修において、全校を挙げて道徳科の研究と授業改善に取り組んでいる。その中で、ペアやグループでの交流を取り入れてはいるものの、学級集団の中では、経験や思考にあまり大きな差がないため見方がなかなか広がらず、考えを十分に深めることができていないことがある。また、生徒が、道徳科の授業で考えたことを実生活で振り返る機会が少ないため、道徳科の学びが一過性のものに留まっているという課題がある。

これらの課題を踏まえて、多様な人々をゲストティーチャーとして活用すること、道徳科の授業での学びと日常生活とをつなぐ振り返りの場を定期的に設けることが必要であると考え。道徳科の授業において生徒の視野が広がるようにするために、多様な人材をゲストティーチャーとして活用する。また、生徒が道徳科での学びと自らの生活とをつなげて振り返ることができるようにするために、道徳科での学習の過程を一つに集約するようなデジタルポートフォリオを作成する。

以上のことから、本研究の主題を「視野を広げ、生き方についての考えを深めることができる生徒の育成」と設定し、副主題を「ゲストティーチャーの活用とデジタルポートフォリオによる振り返りの充実を通して」と設定した。

II 研究の目的と方法

1 目的

道徳科において、ゲストティーチャーの活用とデジタルポートフォリオによる振り返りの充実を通して、視野を広げ、生き方について考えを深めることができる生徒の育成を目指す。

2 研究の方法

【手立て1】視野を広げるためのゲストティーチャーの活用

道徳科の授業において、生徒が物事をより多面的・多角的に考えられるようにするために、生徒とは経験や立場の違う人材をゲストティーチャーとして活用し、生徒が新たな見方や考え方に触れる機会とする。

ゲストティーチャーについては、どのような人材をどのように活用ができるのか参考となる情報を提供するために、学校内外の人材をリストアップし、ゲストティーチャー活用

リストを作成する（資料1）。授業準備として教師は、まず、ゲストティーチャー活用リストを基に授業で扱う内容項目や教材にふさわしい人材を選定し、どのように活用するかを確認する。その上で、事前に行うゲストティーチャーとの打ち合わせでは、授業のねらいや生徒への関わり方など、授業の展開についてゲストティーチャーと確認する。

また、ゲストティーチャーについては、直接またはオンラインで授業に参加したり、収録しておいたインタビュー動画を授業で流したりするなどして、ゲストティーチャーの状況に応じた方法で生徒とつなぐようにする。

【手立て2】デジタルポートフォリオによる振り返りの充実

生徒が学習者用端末を使って、学びの記録を、デジタルポートフォリオに蓄積できるようにすることによって、道徳科の学びについて一覧性や検索性を高めるとともに、生徒が自らの成長を実感できるようになるものと考えた（図1）。

デジタルポートフォリオは、教師がGoogleスプレッドシートで作成し、ワークシートの振り返り欄、授業の板書、ワークシート等の教材、心の探究タイムの記録を蓄積できるようにする（資料2）。板書やワークシート等の教材は、端末に保存したデータとリンクさせることで、生徒が見返したいときに授業での学びを振り返ることができるようにする。

デジタルポートフォリオを活用して振り返る時間を「心の探究タイム」として設定する。「心の探究タイム」では、道徳科の学びを日常生活でどのように生かしているかを振り返り、デジタルポートフォリオの「心の探究タイム」の欄に記入し蓄積していく。この欄には気付いたことや実際に自分がしたことなどを生徒がいつでも追記できるようにする。

また、教室の一角に、道徳コーナーを設置し、道徳科の授業内容を、毎回A4用紙1枚にまとめて掲示し、生徒がいつでも閲覧できるようにする（資料3）。付箋紙を常備しておき、生徒が感じたことを、随時コメントできるようにするとともに、友達の行動にも目を向け、よかったところを伝え合う時間も設ける。


		3
日時	9/19	
教材名	違いを乗り越えて	
内容項目	C-(18) 国際理解 国際貢献	
振り返り	文化や生活習慣などが違っても気持ちを通じ合えることが大事ということが「本当にそうだな」と思った。	
関連資料	板書	https://drive.google.com/file/d/1oNU0F8yN7Z1boLmGy9iSTerPMWsnJBUvixw7usp/drive
	ワークシート	
心の探究タイム	特になにかあったわけではないけれど、これからは、他国の人と関わる機会があったら、今回のお母さんのように、言葉が理解できなくても気持ちを大切に接してみようと思う。9/24	

図1 デジタルポートフォリオ

III 実践

本研究は、第1学年30名を対象に、道徳科の授業実践を中心に行った。

1 視野を広げるためのゲストティーチャーの活用

(1) 直接授業への参加 <自校のALT>

「多文化の理解を深める」C-(18) 国際理解、国際貢献

文化の違う人と分かり合うためにはどうすればよいか、生徒がより多面的・多角的に考えられるようにするために、外国出身で身近な存在であるALTをゲストティーチャーに招いた（図2）。授業前の打ち合わせメモを基にして、ALT



図2 多文化理解に関する思いを語るALT

が、「多文化の理解を深めるために大切なこと」について、外国の人の立場から率直な思いを述べるようにした。導入において、ALTは「外国のことを理解しようとしてくれるの

はうれしいけれど、自国の文化は相手に知ってもらわなくていいのですか」と生徒の考えに対して疑問を投げ掛けた。展開において、ALTは机間巡視により、生徒のロールプレイを見守ったり、生徒と対話したりした。終末において、ALTは、授業に参加した感想と異文化理解に対する思いを語った。ALTの話に、生徒は真剣に耳を傾けて聞いていた。ALTの参加によって、生徒の視野が広がり、多面的・多角的に考えるきっかけとなった。

(2) 動画メッセージの視聴 <赤城少年自然の家の職員>

「きまりを守る」 C-(10) 遵法精神、公德心

林間学校の際に、赤城少年自然の家の職員に依頼し、客観的な立場から生徒の行動がどのように見えていたかについてインタビュー動画に収録した。導入において、職員のインタビュー動画と「きまりを守ること」に関する生徒のアンケート結果を提示した(図3)。終末において、職員から生徒に向けた今後の生活へのアドバイスと励ましのメッセージ動画を流し、生徒が考えを深められるようにした。



図3 動画を視聴する様子

(3) 生徒の質問への回答<看護師>

「支え合う生命」 D-(19) 生命の尊さ

授業の後、病院で働く現役の看護師に、命について疑問に思ったことを手紙で質問した。看護師からの回答により考えを深められるようにした(図4)。

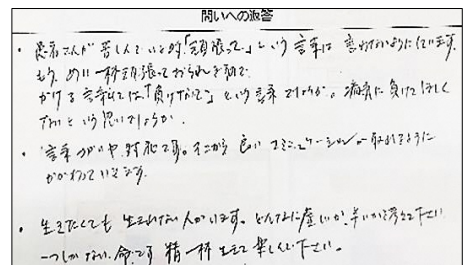


図4 看護師からの手紙による回答

2 デジタルポートフォリオによる振り返りの充実

(1) デジタルポートフォリオの活用

2学期初回の道徳科の授業において、生徒は使い方と目的の説明を聞き「学期初めの自分」の欄を記入した。そして、毎回の授業の終末に振り返りを記入した(図5)。週に1回「心の探究タイム」を設け、生徒が日常生活での気付きや実践した内容を記入した。また、月に1回「心の交流タイム」という道徳科の学びに関わる友達のよい行動について伝え合う時間も設けた。



図5 気付きや実践内容を記入する生徒

学期末に、生徒がキャリアパスポートの振り返りを記入する際には、蓄積してきたデジタルポートフォリオを資料とした。

(2) 道徳コーナーの設置

休み時間に、道徳コーナーの前で立ち止まって、付箋紙に書かれたコメントを読み、共感している生徒の姿が見られた。コメントの内容も徐々に充実し、授業で取り上げられた内容項目と学校行事とを関連付けたコメントも見られるようになった(資料3)。

IV 結果と考察

1 視野を広げるためのゲストティーチャーの活用における生徒の変容

(1) アンケートの結果から

「ゲストティーチャーが参加したことで、内容項目の理解が深まったか」という質問に対しては、約9割の生徒が肯定的な回答をした。自由記述には、「自分だけでは、思い付

かない視点で考えられた」という記述も見られた。「ゲストティーチャーが参加することで、自分の視野を広げることができたか」という質問に対しても、約9割の生徒が肯定的な回答をした。自由記述欄には、「身近な人の意見しか聞いていなかったけれど、ALTの先生などが来てくれたおかげで、別の立場からの意見を聞いて新たな考えをもつことができた」といった記述が見られた。このことから、ゲストティーチャーの活用は、生徒が視野を広げられるようにする上で一定の効果があったと考えられる。

(2) 生徒の様子から

ALTが参加した授業の後、異文化理解について、生徒がALTに自主的に尋ねる姿が見られた。さらに、昼休みにALT主催の「フリートーク」に参加する生徒が増えた。

2 デジタルポートフォリオの活用と「心の探究タイム」における生徒の変容

(1) アンケートの結果

ア デジタルポートフォリオ

「デジタルポートフォリオはどのような効果があったか」という質問に対して、「過去の授業を振り返ることができた」「道徳科の授業での学びと自分の生活とを結び付けて考えることができた」等の回答が多数あった。また、「自分の成長に気付けたか」という質問にも、約8割の生徒が肯定的であった。自由記述には、「成長が一目で分かる」「管理と閲覧がしやすい」という記述が多く見られた。

イ 心の探究タイム

9割の生徒が、「心の探究タイムがなかった一学期に比べて、日常生活の中で道徳の授業を振り返ることが増えた」「心の探究タイムにおいて、道徳科の授業での学びと自分の生活とを結び付けて考えることができた」という肯定的な回答をした。

(2) 振り返り欄の記述から

実践を始めた当初は、生徒の記述の末尾が「～と感じた」「～と思った」という表現が多かったが、2学期末になると、「～した」「～してみた」「～できた」という記述が増えた(図6)。このことから、生徒の心や考え方の変容が、行動にも変化を与えるようになったと考えられる(資料4)。

部活で諦めそうな場面でも勇気を出して行動を選択した。(4/25)	部活の最後の片付けのとき、人が足りなかったから当番ではなかったけれど友達や先輩と協力し合いながら行った。自分から先輩に手伝いましょうかと聞くことができました。よかったです。(5/14 OOさんより)	一度前に嫌いな人が来たことを断りだけを見ることができなくて、これからはどうするかを考えていきたい。どんなことでも、これからはやるかというようにしていきたい。(9/24)	特になにかあったわけではないけれど、これから先、他国の人があつたら、今回のお母さんのように、言葉が無理でもまずは気持ちを大切に接していこうと思う。(9/24)	マザーテレサのように、倒れている人を助けることはできないけれど、愛のある人を目指して、いない人の机を運んだりした。大きなことはできないけれど小さなことからできる行動ができるように心がけて行動したい。(10/08)	部活の当番。毎週特定の日に休んでいる人が、毎日のことではいいはずなのに、部活中に他の人に代わってもらったり、交換したりしない。部活中に人がするの当たり前にならなくて、私は公平ではないな」と思いました。私は友達だったから少し高ぶっていたけれど、客観的に見ると本当に伝えたらその子からも感謝された、ということがあった。
----------------------------------	---	--	---	--	---

図6 実際に生徒が記述した振り返り

V 研究のまとめ

1 研究の成果

ゲストティーチャーを意図的に活用した結果、より多面的・多角的な視点から、内容項目及び自分の生き方について考えられるようになった。

授業での学びをデジタルポートフォリオに蓄積し、「心の探究タイム」で自分自身の学びや成長を振り返ったり、友達と認め合ったりすることによって、よりよい生き方について考えを深めようとする生徒が増えた。

2 課題と今後の課題

学校の実態を踏まえて独自の活用リストが作成できれば学校の財産になると考える。ゲストティーチャー活用リストとデジタルポートフォリオについては、他の教員や生徒たちの意見を聞きながら、改良を重ね、今後も持続可能な形で実施できるようにしていきたい。

【資料1】 ゲストティーチャーのリストアップ

	教材	内容項目	校外	校内	活用例
1 A	アッকারの漫画を描きたい	希望と勇気、死にたい意志			
2 D	挫折から希望へ	よりよく生きる喜び	OB,OG	教師の体験談	学生時代の失敗談を
3 B	人のフリみて	思いやり、感謝			
4 B	「愛情貯金」ではじめませんか	礼儀			
5 C	さかなのなみだ	公正、公平、社会正義	心療科カウンセラー	生徒指導担当	カウンセラーの経験
6 B	近くにいた友	友情、信頼			
7 A	トマトとメロン	向上心、個性の伸長			
8 D	ばあば	生命の尊さ		養護教諭	介護される当事者か
9 C	ふれあい直売所	遵法精神、公德心	法曹関係者	生徒指導担当	法を守らなければな
10 C	あったほうがいい?	社会参画、公共の精神	ボランティア団体	清掃担当	なぜボランティアを
11 A	疾走、自転車ライダー	節度、節制			
12 C	花火に込めた平和への願い	国際理解、国際貢献	戦争経験者	社会科担当	実際に戦争を経験し
13 B	部活の帰り	友情、信頼			
14 A	私らしさって?	自主、自覚、自由と責任			
15 C	むかで競走	よりよい学びの姿、集団での成果	OB,OG	体育担当	OBやOGに実際の体
16 C	震災を乗り越えて	被災地の人材	地元出身の教師		地元で起きた震災や
17 C	使っても大丈夫?	遵法精神、公德心	弁護士	情報担当	生徒たつて議論を出
18 C	公平と不公平	公正、公平、社会正義	法曹関係者	生徒指導担当	専門的な立場からの
19 C	違いを乗り越えて	国際理解、国際貢献	NGO,NPO職員	ALT	具体的な活動の経験
20 D	あふれる愛	生命の尊さ	看護師	養護教諭	死と隣合せの環境に
21 C	富士山から変えていく	社会参画、公共の精神	NGO,NPO職員	清掃担当	ボランティアの精神
22 D	木の音を聞く	自然愛護	NGO,NPO職員	理科担当	実際に自然に関わる
23 B	バスと赤ちゃん	思いやり、感謝			
24 C	家族と支え合うなかで	家族愛、家庭生活の充実	家庭、介護施設	PTA関係	家庭内で介護経験の
25 C	私は清掃のプロになる	勤労	NGO,NPO職員	労務技師	清掃ボランティアの
26 C	奈良堂に生きる	徳の心、徳の文化、徳の生活	地域の行事運営者	社会科担当	伝統を継承する立場
27 D	ゆう〜で生きていくてありがうー	生命の尊さ	家庭、医療関係者	養護教諭	実際に命が目の前で
28 B	旗	友情、信頼			
29 B	自分だけ「取り」になっちゃダメ……	相互理解、寛容			
30 D	オーロラ光のカーテン	感動、畏敬の念	自然史博物館、天文台等	特別な観察がある教師	特別な自然現象等を
31 A	家庭のできごと	自主、自覚、自由と責任			
32 C	役に立つことができるかな	勤労	職場体験生、OB,OG	労務技師	職場体験に来た先輩
33 A	緑のじゅうたん	真理の探究、創造			
34 C	「肝心」のパスガイド	地域の歴史、文化、観光	志野町の広報担当	県外職員	自分たちの住む郷土
35 D	いつわりのバイオリン	よりよく生きる喜び	OB,OG	教師のエピソード	実際のエピソードか

【校外・校内】
内容項目や教材に合わせて活躍が期待される校内外の人材をリストアップする。

【活用例】
想定される活用方法の例を記入しておく。

【内容項目】
A（自分自身）とB（人との関わり）は比較的自分に近い内容であるのに対して、C（集団や社会との関わり方）とD（自然や生命、尊さとの関わり方）は生徒だけでは想像の範疇を出ない内容であることが多い。そこで、本研究におけるゲストティーチャーの活用として、生徒だけでは視野が広がりにくいと考えられるCとDに絞ってリストを作成した。

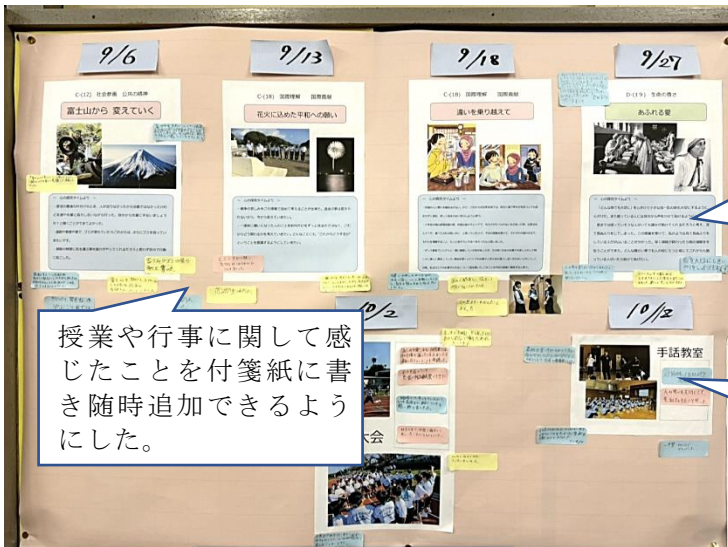
【資料2】 デジタルポートフォリオの構成

A	自分自身
B	人との関わり
C	集団や社会との関わり
D	生命や自然、崇高なもの
<p>内容項目ごとにセルの色を分ける。</p> <p>学期初めと学期末の自分を比較し、成長を感じられるようにするために、予め生徒が記入しておくようにする。</p>	
<p><2学期 今の自分> 今の私は、個性を認めたり、自分の意思を持つこと、感謝の気持ちを持つ事はできているけど、それを色んな表現で相手に伝えたり声に出す事があまりできていない。また、自分の意思を相手にハッキリと伝えられな</p>	
<p>ワークシートとリンクさせる。</p>	
<p>端末内の板書のデータとワークシートを参照できるようにする。</p>	
<p>「心の探究タイム」の振り返りを記述する欄を設ける。</p>	

< 道徳 心の成長記録 > (2学期)

記入例	1	2	3	4	1	
4/20	9/6	9/13	9/19	9/27		
教材名 サッカーの漫画を描きたい	富士山から変えていく	花火に込めた平和への願い	違いを乗り越えて	あふれる愛		
内容項目 A-(4) 困難を乗り越える力	C-(12) 社会参画 公共の精神	C-(18) 国際理解 国際貢献	C-(18) 国際理解 国際貢献			
振り返り 夢を持つことの大切さに気付くことができた。また目標に向かう希望と勇気を持って前向きにやり抜こうとする気持ちになりました。	自分らしく生きるということ、それを周りの人にも伝えていくこと、自分らしく生きる喜びを感じた。また、人ではできない事は、言葉で伝えるという事は、今までは出来なかった。	過去のことを引きずってしまっていたけど、これからは、過去のことを考えるのではなく、今どうすれば良いか。	自分の関わりについて、自分らしく生きるということ、それを周りの人にも伝えていくこと、自分らしく生きる喜びを感じた。また、人ではできない事は、言葉で伝えるという事は、今までは出来なかった。	今日の授業で自分の考えを伝え、それが伝わっている。また、自分の考えを伝えることは、自分らしく生きるということ、それを周りの人にも伝えていくこと、自分らしく生きる喜びを感じた。また、人ではできない事は、言葉で伝えるという事は、今までは出来なかった。		
関連資料 ワークシート	https://drive.google.com/file/d/1szj6DsYyYQ2OXeRl5MwyADxM_g	https://drive.google.com/file/d/1vTLdnEt2Y1sbM8wBchLNgVltTB	https://drive.google.com/file/d/1qN8yN7f2ttmGy9t5			
心の探究タイム	部活で決めそうな場面でも夢のことを考えて行動を選択した。(4/25) 私が部活の自主トレメントを付けているのを見た友達に、夢に向かって頑張っ	掃除の時間を誰かがやってくれるだろうと思わず自分で行動に起こした。(9/24)	ニュースでみた他国での戦争のことをみて、自分の国じゃないから大丈夫。ではなく、今ある平和に感謝しながら少しの危機感を持って聞いた。(10/21)	あまり外国の人と関わる機会がなかったけど、この学習を通じての考えよりも自分の国の文化も外国の文化も考えへ変える事ができた。		

【資料3】 道徳コーナー

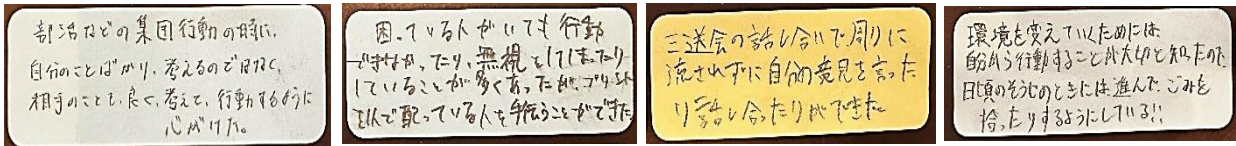


授業ごとに振り返りをまとめ時系列にして教室に掲示した。生徒の目に留まるようにすることで、自然と意識できるようにした。

授業や行事に関して感じたことを付箋紙に書き随時追加できるようにした。

学校行事等についても、道徳科の授業で学んだこととつなげてコメントできるようにした。

生徒が記入した道徳コーナーの付箋紙



【資料4】 心の探究タイムにおける生徒の記述

「生まれてきた大切な命」 D-(19) 生命の尊さ
 「どんな命でも大切に」を心がけて小さな虫一匹の命も大切にするように心がけた。また困っている人には自分から声をかけて助けるようにした。 9/27

「つながりが生み出す力」 C-(12) 社会参画、公共の精神
 いつも散らかっているゴミ捨て場のゴミを拾って綺麗にした。そしたら近所の人々が褒めてくれたり、お礼を言ってくれたり、中には手伝ってくれる人もいた。それから違う日にもいろいろな人が掃除をしているのを見るようになり、気持ちは伝わるのだと思った。 10/8

【生徒の記述の抜粋より】
 「心の探究タイム」を続けてきたところ、生徒の振り返りの文末が「思う」「思った」から、「した」「できた」というようになってきた。

〈参考文献〉
 浅見哲也 (2021) 道徳科 授業構想グランドデザイン 明治図書出版
 浅見哲也 (2023) 道徳授業の個別最適な学びと協働的な学び 明治図書出版
 群馬県教育委員会 (2019) はばたく群馬の指導プランII
 田沼茂紀 (2023) 道徳は本当に教えられるのか 東洋館出版社
 文部科学省 (2018) 中学校学習指導要領 (平成29年告示) 解説 特別の教科 道徳編
 【教科用図書】
 日本文教出版 中学道徳 あすを生きる1 令和2年検定済